

「帆山地区」

香川県仲多度郡まんのう町 帆山地区

自治会長 岩倉 節夫 会長

地域内の担い手高齢化を受け集落営農法人を設立。米・麦・ヒマワリによるブロックローテーションを推進し、ヒマワリの加工品の開発・販売や低アミノース米やマコモの導入もしている。県下でも有数のヒマワリの名所となり、毎夏開催の「ひまわりまつり」が定着するなど地域資源を活かした取組を続けている。

【むらづくりの経緯】

帆山地区は、まんのう町西部の中山間地に位置する農村地帯である。

地区では、昭和54から59年にかけて基盤整備を実施し、ほ場や池からのパイプラインを整備した。あわせて地域農業集団を設立し、地区を4区画に分けたブロックローテーションに県内でも最初に取り組んだ。

中山間地の冷涼な気候を活かした米、平成4年から導入したヒマワリ、近年復活したはだか麦を組み合わせるとともに、マコモの栽培も始めている。

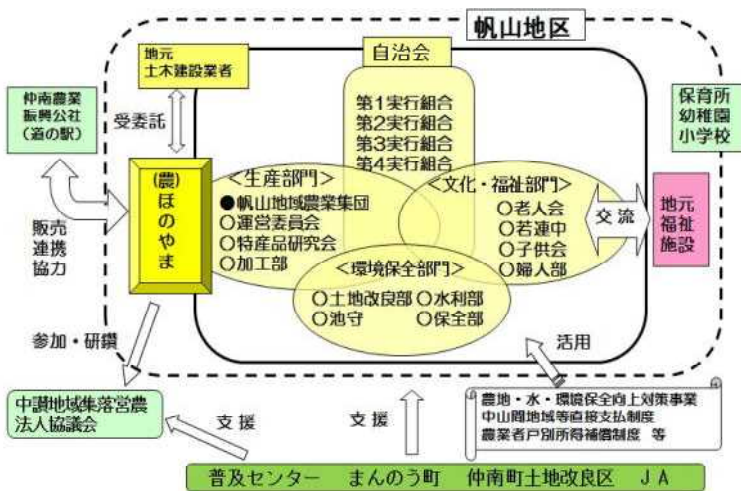
農業情勢の変化や地区内の担い手の高齢化に対応するため、集落内での話合いやアンケート調査、先進地視察研修などを行い、集落営農に取り組む「農事組合法人ほのやま」（以下「(農)ほのやま」）を平成22年度に設立した。

(農)ほのやまは、自治会や関係機関と連携や協力をしながら、農業だけでなく地域づくりの様々な分野で積極的な役割を担っている。

地区の概要

規模:1集落	区分:平地農業地域	
総世帯数	118 戸	農業生産概要
総人口	407 人	
販売農家戸数	31 戸	水稲 14ha
主業農家	0 戸	ヒマワリ 5ha
準主業農家	8 戸	麦 3ha
副業的農家	23 戸	マコモ 0.6ha
耕地面積	23 ha	水稲 (1,300万円)
田 22ha、畑 1ha		ヒマワリ (80万円)
販売農家1戸当り耕地面積	0.7ha	マコモ (30万円)
認定農業者	1	
うち法人	1	

推進体制



また、ほ場整備から30年近く経って老朽化する施設等を維持していくため、農地・水・環境保全向上対策等に取り組み、地区全体で施設の保守管理を徹底することにより長期にわたる施設の有効利用を図っている。

まとまった面積で一斉に咲くヒマワリは、県下でも有数の名所となり、特産品づくりやイベント開催などヒマワリを中心とした地域づくりが進められている。

【むらづくり活動の特徴】

～ 集落営農法人と新たな担い手 ～

(農)ほのやまは地元の土木建設業者に、トラクター、田植機、コンバイン等の大型機械を使った基幹作業や乾燥・籾摺りを委託してオペレーターを確保した。

土木建設業者は、本業の仕事が少ない時期が農繁期と重なるため、その時期に受託料の収入が期待できる。

一方、(農)ほのやまは、組合員が畦畔の草刈りと水管理作業をしながら新規作物の試験栽培や農産物加工にも力を入れることができるようになった。また、使用者が限られるので機械の持ちがよくなるなど、互いにメリットがある。



地元土木建設業者による農作業

～ 特産品の開発 ～

ヒマワリは、夏の風物詩としての景観を生み出すだけでなく、種子から油を搾り活用している。当初はひまわり油のみの販売だったが、県内業者と提携して「太陽のめぐみドレッシング」を開発し、道の駅で販売している。

最近では、機能性成分に注目して有望品種を導入し、県の試験研究機関等と連携して加工品の開発を目指している。

マコモタケも生食用では出荷できる期間が限られるので、「マコモタケの辛子漬」を商品化し販売している。



ヒマワリの加工品

～ 地域の環境保全活動とヒマワリを活かしたイベント ～

池干しや畦の草刈り、地区内一斉清掃、各種施設点検など地域の環境保全活動は、農地・水保全管理支払や中山間地域等直接支払も活用し、地区住民全体で行っている。

ヒマワリが一斉に咲く7月には、自治会の行事として「ひまわりまつり」を平成12年度から毎年開催している。

地元の福祉施設、保育所、幼稚園、小学校等地域の方々を楽しんでもらうため、フォトコンテストや写生大会、野外オーケストラの生演奏が行われる。ヒマワリの切り花、ドレッシングなどの特産品販売とお茶のお接待などもある。運営にあたっては、100名以上の地区住民がボランティアとして携わり、参加者と交流を図っている。

県内の各種メディアにも取り上げられ、町内外はもちろん県内外から多くの人を訪れる。



ため池の池干し



ヒマワリ畑



マコモタケ



地元福祉施設入所者との交流